

ひまわり部

(1) ひまわり部教育目標

重度・重複・病虚弱障がいのある児童生徒一人一人が、特性や教育的ニーズに応じた自立活動を主とする学習を行うことによって、まわりとのかかわりをもちながら生き生きと生活できる力が育つ。

(2) 基本方針

- ①児童生徒の障がいや体調に応じて教育形態や集団を柔軟に考えできるだけ教育を保障する。
- ②家庭・医療と連携をとりながら、睡眠、食事、排泄、呼吸などの生理的基盤を整え、基礎体力をつけていく。また、身体の緊張を緩和し、いろいろな姿勢をとることによって身体の拘縮や変形の進行を予防する。
- ③コミュニケーションを基盤に自分の思いや心身の快・不快の状態を表情・発声・身体の動き等で表現できるようにする。また、さまざまな人の支援やかかわりを受け入れながら体験の幅を広げ、安定して適応できる生活場面を広げていくことができるようにする。
- ④自発的に身体を動かしたり対象に働きかけたりする活動を通して、意欲と達成感を育みながら身体の各部位の動作の力を高めていくことができるようにする。
- ⑤視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚等の様々な感覚を豊かにして外界への興味を高めていく。また、週日課を带状に編成し、繰り返しの学習活動を行うことで期待や見通しをもって生活できるようになる。
- ⑥自立活動を主とした学習を基盤とするが、児童生徒によっては、教科学習の可能性を探る。

(3) 学習のねらいと内容及び支援

①学校での学習（スクーリングを含む）

学習名 (教科・領域) 【学習集団の単位】	ねらい	主な内容	支援
すこやかタイム (遊びの指導) (体育) (自立活動) 【個別】	心身のリラックス、四肢体幹の変形・拘縮の進行の予防、各種姿勢の保持、自発運動の促進、排痰等の呼吸支援、水分摂取などに主体的に取り組みながら生理的基盤を整えつつ、身体の動きの向上及び心身、健康の保持増進を図る。	心身の学習 ・心身のリラックス ・筋緊張の緩和 ・身体ストレッチ ・身体各部位の意識 (ふれ愛リラックス体操 歩行器、立位台) 水分摂取学習 ・経口摂取 ・経管摂取	年間を通して学習の継続性や系統性を大切にし、日々の繰り返しを通じて児童生徒が学習への見通しや期待感を高めていくことができるようにする。 医療機関へ出向いての訓練参観研修等の機会を活用して骨の強さや関節の可動域等の児童生徒の身体特性を丁寧に把握し、安全かつ快く学習を進められるようにする。
朝の会 帰りの会 (日常生活の指導) (特別活動) (自立活動) 【学級】	朝の会:朝のあいさつや歌を歌うことで、一日の始まりを知り、友だちとの関わりを深める。 帰りの会: 1日の活動をふりかえり、自分や友だちの活動の様子を知り、学校での1日の活動の終わりがわかる。	・歌や名前呼び、挨拶、月日・曜日・天気・1日の活動予定の確認をする。 ・当番は会の進行を行う。 ・1日の活動を振り返り、楽しかったことや頑張ったことを発表する。 帰りの歌を歌う。	児童生徒に応じた活動しやすい姿勢や体位で参加する。 CTの先生と一緒に当番の児童生徒は友だちのところをまわる。 発表した内容に共感したり、認め合ったりできる雰囲気をつくる。
みんなの学習 (生活単元学習) (自立活動) 【学級】	個々の児童・生徒の興味や願いを基にした学習活動を集団で行うことによって、活動する楽しい雰囲気を感じたり、友だちの様子を見たりし	・季節、時季をとらえた内容(水遊び、雪遊び、年末年始の活動、一年のまとめ等) ・その時期の興味関心から決め出す内容(遊びを	季節感を大切にし、そのときの児童生徒の実態に合わせた内容を扱う。 ・五感に働きかけた内容を取り入れる。 ・人とかかわる活動を取り入れる。 ・授業の流れをシンプルにし、また

	て自分らしく取り組む。	核にした活動、制作的活動、感覚遊び等) ・学年や部の行事に合わせて設定する内容(親子遠足や修学旅行、松養祭、音楽発表会に向けての活動等)	繰り返しを大切にする。 ・学習活動に応じて適した姿勢及び体位を工夫する。 ・健康状態や心身のコンディションの把握と適切なケアについては、医療的ケアに携わっている学校看護師と密接に連携をとりながら行う。
給食 (日常生活の指導) (自立活動) 【個別・学級】	児童生徒の摂食の力に応じて、食物の取り込み・咀嚼・嚥下等の力を高める(維持する)。 経管による栄養摂取を行う児童生徒は、リラックスして食事をする。	・バイタルチェック ・胃内残留量の確認(胃ろう) ・排泄 ・腹臥位、側臥位等の姿勢保持 ・食事 ・歯磨き、口腔ケア ・係活動(下膳等)	・ポジショニングシートを基本にして適切な姿勢を整える。 ・リラックスして食事をとる雰囲気作りを意識し、コミュニケーションを大切にしていく。 ・その日の体調を注意深く観察して、支援者が交代する際は体調等の情報を引き継ぎ、無理のない食事摂取になるようにする。 ・看護師と連携して、スムーズに医療的ケアが行われるように配慮する。 ・経口摂取ではない児童生徒には給食の香りの紹介を行う。 ・給食支援マニュアルを活用し、職員間で共通理解した上で支援する。 ・経口摂取の児童生徒の食事支援をする際は感染症対策としてアイシールドとマスクを着用する。
個別学習 (教科・領域を合わせた指導) (各教科) (自立活動) 【小集団・個別】	個別の教育目標に添った学習内容を継続的に行うことで主体的に生きる力を身につけるようにする。	身体にかかわる活動 音楽、あそび 制作、作業活動 など	集中して学習が行えるよう環境を調整する。 姿勢に留意し、身体的に落ち着いて活動できるようにする。
わくわくタイム (教科・領域を合わせた指導) (各教科) (自立活動) 【学級・小集団】	小集団での活動で、友だちの様子を身近に感じたり、自分が好きな活動を広げたりする中で意欲的に学習に取り組もうとする。	感覚遊び・粗大運動 (大型ブランコ、トランポリン) 散歩、外気浴 歌、楽器遊び、手遊び 本の読み聞かせ 工作・制作 足湯、アロマセラピー ムーブメント、スヌーズン活動	メンバーを考慮して、適した活動を行う。子どもたちの興味関心に添った学習の授業構成や教材作りを心がける。

<p>ひまわり音楽 (音楽) (教科領域を合わせた指導) (自立活動) 【学級】</p>	<p>歌う、踊る、楽器を鳴らす、ムーブメント、等の活動を通して音楽に親しんだり、季節感を味わったりする。 みんなで手遊びやダンスなどをしながら集団の中で音楽活動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスや手遊び、歌などを通して身体を使った表現を行う。 ・鑑賞やパネルシアター等を通して、いろいろな曲やリズムに親しむ。 	
<p>作業学習 (作業学習) (自立活動) 【高等部生】</p>	<p>様々な作業を継続して取り組むことを通して、働く力(将来の社会参加につながる態度・知識・技能)を身につける。 販売会や高等部作業班とのやりとり等で社会と触れ合う経験を積み重ね、対人意識や社会性を身につける。</p>	<p>高等部のエコロジー・園芸・手芸・粘土・農耕・木工の各班からひまわり部の実態に応じて選択し、製品の製作や販売、まとめの会等を行う。</p>	<p>作業学習カードを用い、個の「ねがい」を大切にす。 生徒の実態に応じて、はたらく力に関する支援シートを活用する。</p>
<p>児童会・生徒会 (特別活動) (自立活動) 【個別・学年・所属部】</p>	<p>学年の枠を越えた友だちとの活動を共にすることで、仲間とかかわる経験を積む。</p>	<p>実態に応じて所属部の企画運営や進行に参加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加については年度ごとに様子に合わせて検討していく。 ・主体的に活動できるように、興味のある活動を中心に係の活動や発表の場を用意する。 ・人前で見通しをもって活動できるように、練習も大切にする。
<p>排泄・水分補給・着替え (日常生活の指導) (自立活動) 【個別】</p>	<p>排泄、着替え、水分摂取等の日常生活活動を通して、生理的基盤を整えつつ健康的・自立的に生活できる範囲を広げていくことができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校(あいさつ) ・身支度(衣服の着脱) ・保健衛生的内容(排泄・歯磨き・手拭き等) ・係の活動等 	<ul style="list-style-type: none"> ・排尿しているかどうかを児童生徒に尋ねる。 ・児童生徒が可能な限り主体的に行えるように声かけをしたり腰を上げるガイドをしたりする。
<p>性教育 (体育) (特別活動) (自立活動) 【個別・学級】</p>	<p>健康な生活を送るために清潔に気をつける。 自分の体の成長について知る。 男女の違いがあることを知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの清潔(手洗い・手拭き、歯磨き、口腔ケア等) ・排泄の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で手洗いや手拭き、歯磨き等、繰り返し取り組む。 ・排泄記録を用いる等して排泄のリズムがつかめるようにする。また、記録表を用いて家庭と連携を図っていく。 ・鏡やiPad等を用意し、自分の姿が確かめられるようにする。 ・カーテンやパーテーション等で男女の着替えやおむつ替えをする際の場所を区切る。 ・基本は小4年以上の児童生徒は同性介助(移乗、おむつ替え)とする。 <p>*場合によって2名で移乗する際、</p>

			上半身は同性とする。
<p>道徳 (道徳)</p> <p>【個人・学級】</p>	<p>学級や学年集団で生活する中で、友だちや職員とよりよいかかわりが持てる。</p>	<p>集団生活におけるマナーやルールを実生活の中で学習していく。</p> <p>周囲の人との望ましいかわりについて実際の場面で繰り返し学習する。</p> <p>公共のマナーを日常の学校生活の中でも意識的に仕組んでいく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な望ましい行動の仕方や人とのかわり方(しぐさ、ことば)など見本を示し、一緒にやるようにする。 声がけやカードの提示など、子どもに応じた方法で、徐々に一人でもできるように支援していく。
<p>交流及び共同学習 (特別活動) (自立活動)</p> <p>【個別・学級・他部所属学年、学級】</p>	<p>他部所属学年や学級の仲間としてともに活動し、自然なかかわりがもてる。</p> <p>副学籍校や地域の方とかかわりをもつ。</p>	<p>他部との交流</p> <p>所属学年、学級との交流</p> <p>副学籍校や地域の方、大学生との交流</p>	<p>副学籍校との交流については、保護者の意向を踏まえ、実態に見合った交流活動を計画する。相手校と事前事後の情報交換を密にして活動内容を検討する。</p> <p>交流相手と個々の合理的配慮を確認し、適切な交流内容や回数について打ち合わせを行う。</p>
<p>進路学習 (小：特別活動) (中高：職業・家庭)</p>	<p>小：集団の中で、自分の役割(係や当番)の仕事を意識し、やり遂げようとする。</p> <p>中：生徒が将来に向けて自分なりの願いをもち、その実現に向けて努力する意欲をもったり、態度を身につけたりすることができる。</p> <p>高：自己選択・自己決定しながら主体的に卒業後の就労生活をしていくための態度・知識・技能を身につける。</p>	<p>小：学級、学年等の係の仕事や健康の維持、挨拶や返事、人とのかわり、身だしなみ等。</p> <p>中：卒業後の進路についての学習をしたり、作業や生活の様子を見学や体験したりする。</p> <p>高：職場見学、校内実習、現場実習、進路相談および事前・事後学習などを行う。</p>	<p>小：活動の達成感もてるよう、お互いのがんばりや良さを認め合う場を設ける。家庭でのお手伝いや日常のマナー等、保護者との連携も大切にする。将来に向けてどのような力を育てればよいか、将来を見据えたつながりをキャリア教育の視点に立って考えていく。</p> <p>中：生徒が見通しをもって見学・作業できるように、施設や作業所との連絡を充分にとり、事前学習を行う。年間計画に進路学習を位置づけ、計画的に行う。職場見学では、保護者にも参加を呼びかけていく。</p> <p>高：体験と結びつけて卒業後の生活を見通す場を設定する。関係諸機関との連携を図り学習の場を設定する。</p>
<p>部行事 各学年行事 (特別活動) (自立活動)</p> <p>【小集団・学級】</p>	<p>校外に出かけて公共の場での活動や季節ごとの体験、集団での行動、寝食を共にする体験などから、自然に親しんだり、社会生活や集団行動のルール、公共マナー等を感じたりする。</p>	<p>修学旅行(小6・中3・高3)</p> <p>中高校外学習(中高等部)</p> <p>小親子遠足(小学部)</p> <p>他部所属学年の校外学習</p> <p>入学進級を祝う会</p> <p>卒業を祝う会</p> <p>音楽発表会</p>	<p>一人一人が楽しめる活動や活躍できる場面を用意し、もてる力を出せるような行事の内容や運営を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の学習を行い、具体物やキャラクターなどを使って、活動場所や活動内容を分かりやすくする。 家庭ではあまり経験できない、内容も取り入れる。

②訪問授業 基本とする学習時間 午前10:00~12:00 午後1:30~3:30 週3回程度

学習名 (教科・領域) 【個別学習】	ねらい	主な内容	支 援
始めの会 (自立活動) (日常生活の指導)	・始めの挨拶や歌を歌うことで、授業の始まりを知り見通しを持つことができる。	歌や挨拶 活動の予定 季節の話など	参加しやすい姿勢や体位をとる。 呼名や挨拶をした後の様子を大切に受け止め、積極的に意味づけていく。 その日の授業の予定を話す時、授業で使う物や音を提示しながら行う。
すこやかタイム (自立活動)	・心身のリラックス、四肢体幹の変形・拘縮の進行の予防、関節の可動域の拡大、さまざまな姿勢の保持、自発運動の促進など、主体的に取り組みながら生理的な基盤を整えつつ、身体の動きの向上及び健康の保持をすることができる。	身体遊び ふれ愛リラックス体操等 体位交換・ストレッチ 体の曲げ伸ばし	体操や触る箇所など予測できるように、声かけをしてから行う。 小さい刺激から徐々に大きな刺激へと表情を捉えながら行う。 理学療法を研修し、授業の中でできる範囲の可動域を把握して行う。骨折には十分注意する。
季節・行事にかかわる学習 (自立活動) (教科・領域を合わせた指導) (教科学習)	・感覚を使った活動を通して、快・不快や自分なりの気持ちを動きや表情や声・身体の動き等で表すことができる。 ・自分のめあてや願いを意識しながら主体的に活動に取り組むことができる。	季節や行事にかかわる学習 本の読み聞かせ 植物や食べ物など、季節に合わせた感触あそび 光遊び・揺れ遊び 調理活動 制作活動	児童生徒に応じた活動内容や手立て教材教具・姿勢・提示等を考える。 学習を繰り返す中で、活動の見通しや期待感を高めるようにする。 スクーリングが可能な児生には、「みんなの学習」とほぼ同じ内容・流れの学習を訪問授業で行い、見通しをもって参加できるようにする。
わたしの学習 (自立活動) (教科・領域を合わせた指導) (教科学習)	・好きな活動を見つけ広げたり深めたりする。 ・個別の教育課題に寄り添った学習内容を継続的に行うことで、主体的に生きる力を身につけることができる。	感覚認知にかかわる学習 光、音、揺れなどの遊び・作品制作・散歩・読み聞かせ・各教科	児童生徒に応じた教材を工夫する。 興味関心が上げられるように学習内容など工夫する。 体調や気温などに配慮しながら行う。
排泄、歯みがき、水分補給、着替えなど (自立活動) (日常生活指導)	・個々の生活実態に合わせて、日常生活を営む上で、季節や時に応じた気持ちよい生活を味わうことができる。	排泄指導 水分摂取 歯磨き指導 着替え指導 移動支援	着替え・おむつ替えは骨折に注意する。 個々の実態により、違いがあるので十分に保護者と確認してから行う。
終わりの会 (自立活動) (日常生活の指導)	・学習したことを振り返り、授業の終わりを知ったり次の授業への期待を持ったりすることができる。	活動の振り返り 次回の予定 帰りの歌や挨拶	授業で使った具体物を提示しながら授業を振り返る。

(4) その他

①他部（学年）居住地校等との交流活動について

各部、学年での学習では、各部、学年の児童・生徒や職員とのかかわりを大事に考え、参加する。各部、学年の行事への参加の仕方についても、個々のねらいを明確にし、それぞれの様子に応じて検討していく。特に、校外へ出る行事については、日程や内容など、ゆとりがもてるように考えていく。また、ひまわり部独自の行事もあることから、児童・生徒にとって、負担が大きくなるように配慮する。個々のニーズにより居住地校や各施設との交流をすすめる。

②修学旅行

ア ひまわり部の修学旅行に参加することを原則とする。

イ 児童生徒の実態（教育課題や身体状況）に合わせて、他部（該当学部）の旅行へ参加することも可能であるが、その場合は事前から家庭や該当学部と情報交換を重ね、計画的に参加を検討していく。

ウ 小6、中3、高3で実施する。児童生徒の実態に合わせて、合同または個別に実施する。

③行事・校外学習・社会見学

・ひまわり部独自の参観日は7月に行い、午後に保護者会共催で「進路学習会」を行う。

・「入学・進級を祝う会」（4月）「卒業を祝う会」（3月）を行い入学や卒業を一緒にお祝いする機会とする。

・音楽発表会（11月）を行い、1年間の学習の成果を音楽・劇・身体表現または複合的なものとして総合的にステージで発表し、自己表現する場とする。また、発表を見合うことを通して、お互いの良さや頑張りを認め合い、楽しむ場とする。

・親子遠足、社会見学、校外学習では校外に出かけ、学校とは違う雰囲気を感じ、学校では味わえない体験をすることで、生活の幅が広がるようにする。**交流学年の校外学習には、子どもの実態に応じて、年1回程度実施する。**

④進路にかかわる学習

・居住する教育・福祉諸機関に連絡をとり、子どもの様子を理解してもらい、地域で生活する基盤をつくる。

・進路学習会を実施する。（保護者会共催）

・高等部生については、卒業後のよりよい生活をするために、「個別移行支援計画」を策定し、さらに居住地の福祉関係諸機関と連携をとっていく。

・「個別の教育支援計画」を策定する。家庭生活の介護や移動については、特別支援コーディネーターと連携して、具体的支援を考えていく。

・作業学習や現場実習・職場実習などを、他部の計画のもと個々にあわせて実施していく。（中学部・高等部）

・施設体験を進路指導の先生と相談しながら行う。

・高等部入学選考、小中一日入学については、全校体制の中で考えてもらえるようにするが、部内の推進日程や実施確認を係で行う。

⑤各利用施設（入院・ショートステイ等）との連携

・随時連絡を取りながら、施設内での授業が円滑に進められるようにする。連絡会議を定期的に行う。

⑥身体に関する配慮事項

・常に体調に気を配り、健康観察（体温調節、顔色、体位交換、喘鳴の有無、便の状態など）を丁寧に行い養護教諭と連携を図る。医療的ケアの必要な児童・生徒については看護師との連携をとりながら行う。

・緊急時に、迅速に対応できるように、医療的ケア委員会で計画する救急想定訓練を行う。

・医療機関との連携を大切にし、必要に応じて直接または保護者を通して、主治医との連絡をとる。また、担当の児童生徒の訓練については、年度当初に参観させてもらう。

・主治医への医療相談や必要に応じて支援会議を行う。

⑦就学相談について

「訪問教育の就学のめやす」「通学組の指標」に沿った就学相談を行っていく。通学籍や訪問籍の移行については、校内就学相談委員会にはかる。